

多須神の六宇は本社の分注なるべしと説へる恐くは是なるに似たり其は土佐日記袖中抄などに書れたる文のみならず當國神名帳に從三位上由良姫大明神ありて別に從四位上和太酒明神とあれば由良比女神の分注は加筆なるべし但し當國神名帳に從三位上海原明神從四位上云海彦明神なきは見えたれどこれら海神社の事にあらざるか尙實地に就て考證せまほし

祭日 六月廿日より廿一日迄

社格 村社

所在 別府村(知夫郡黒木村大字別府)

今按神名帳考證信友の書入に視聽合記に知夫郡多澤村より棹し出れば左にもの名は渡島あり長さ六町廿間横三町許其西ノ崎に渡明神と號する社ありと記せりと云ひてこの海神を知多須神ならんとの考證に引けり今國圖を閲するに別府は知夫本郡にある村にして多澤村は知夫の屬島知夫村の内なり明細帳に本社所在を別府村本地と掲載するを按へば此視聽合記の説と恐くは違へる所あるに似たり尙實地に就て考へ計さまほしき事なり

### 比奈麻治比賣命神社

祭神 比奈麻治比賣命

神位 仁明天皇承和五年十月甲午奉授隱岐國無位比奈麻治

比賣神從五位下清和天皇貞觀十三年閏八月廿九日壬申授隱

に付深く御教信有し越委曲社記に有之但鎮祭年紀不詳とあると記載せる焼火山縁起と云ものゝ文にて發明せらるゝなりされば近來唱ふる焼火社は美田村この比奈麻治比賣命神社は宇賀村と云に目を著べしなば明亮なる事は實地に就きて辨別すべきなり

### 眞氣命神社

祭神 真氣命

今按本國神名帳に從三位眞氣明神とあり

社格 村社

所在 宇賀村(知夫郡黒木村大字宇賀)

### 天佐志比古命神社

祭神 天佐志比古命

神位 仁明天皇承和五年二月己酉奉授隱岐國天佐自比古命

從五位下

今按國內神名帳に從一位天佐自彥大明神とあり

祭日 六月八月十五日

社格 村社

所在 知夫村(知夫郡知夫村大字知夫)

今按明細帳に用明天皇御時新府里の南海中の島に在り此を神島と云白雉二年まで年數六十八年也同八月十五日新

### 宇受加命神社

名神大

祭神 宇受加命

府里高津久へ上り給ひ爰にある事萬治二年までそ七年同

年六月十五日今地に御鎮座と社記に云々地名天神原俗

一宮大明神と稱すと記載せり姑く掲げて後案を俟

### ○海部郡

大一座 今稱海上郡

### 奈伎良比賣命神社

祭神 奈岐良比賣命

祭日 六月十一日十月十日月初卯日毎月朔日

社格 村社

所在 豊田村(海士郡海士村大字豊田)

今按視聽合記に周吉郡西郷目貫町古名の西の山腹に本社ありと見えて按神明帳奈伎良比賣命神社在海部郡然則此神祠可在海部郡今郡中無在也既而有之豈郡名之誤歟後世或遷干茲歟抑又別神となり本國神名帳には海部郡從一位奈伎良姫大明神と記載す神名帳考證書入に信友按に周吉郡は島後也海部郡は島前にて島異なり周吉郡なるは海部郡なるを更に祀りたるものにて式なる社にはあるべからず但故ありて遷座あるまきにもあらずなどあるを明細帳には其鎮座年號不相分として本村ミ記載せり姑く帳に掲げなほ實地をよく探索せまほしき事なり

岐國從五位上比奈麻治比賣神正五位下陽成天皇元慶二年五月十七日壬子授隱岐國正五位下比奈麻治比賣神正五位上

今按當國社名帳には從一位比奈麻治姫大明神とあり

祭日 六月廿八日九月十九日

社格 村社

所在 宇賀村(知夫郡黒木村大字宇賀)

今按明細帳に此神は神火を顯して海上漂流の難を救給ひし事國史に見在せる由神體女神一坐極古し外に奇石一つ

昔海中より上り給へりと申傳ふ云々見え和漢三才圖會にも離火櫂現在三海部郡島前祭神比奈麻治比賣神云々と

あるは類聚國史十ニ延暦十八年五月丙辰遣渤海使外從五

位下内藏宿禰賀茂麻呂等言歸鄉之日海中夜暗東西掣曳

不識所著子時遠有火光尋逐其光忽到島濱訪

之是隱岐國知夫郡其處無有人居或云比奈麻治比賣神常有靈驗商賈之輩漂洋海中必揚火光賴之得

全者不可勝數神之祐助良可嘉報伏望奉預幣例許

之と見えたるによく符合へり然るに視聽合記に大山神社に係けていへる如く聞ゆれ此は別社ならんと思ゆる由

は明細帳に別に美田村の内波止の里より十八丁許駕路を上

りて山上に在り兩島に比倫なき景地なり此社海上の危難

を救ひ給ふ神徳ありとて古より今に至るまで諸人崇敬する社なり就中後鳥羽上皇御遷幸之時海上にて靈験有し